

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820039

研究課題名（和文） バイオエコノミーの社会的インパクトに関する人類学的研究

研究課題名（英文） An Anthropological Study for the Social Impacts of Bioeconomy

研究代表者

山崎 吾郎 (YAMAZAKI GORO)

大阪大学・人間科学研究科・特任研究員

研究者番号：20583991

研究成果の概要（和文）：現代医療の実践の一つの社会的な帰結として、新たにバイオエコノミーと呼ぶべき領域が生み出されている。この経済は、身体の交換に際してさまざまな情動の作用が現れることを一つの特徴としている。こうした傾向は臓器移植医療にのみ当てはまるものではなく、生殖医療などさまざまな場面で共通して現れ、それぞれに特徴的な差異を作り出す。それゆえ、バイオエコノミーにおける情動の問題は、さらなる研究を必要とする重要なテーマであると思われる。

研究成果の概要（英文）：As a consequence of modern medicine, there emerges a new economic sphere called bioeconomy. This economy is characterized by its aspect of affection during exchange. And the characteristic is seen not only in the organ transplantation but also in other recent medical practices such as reproductive medicine. Affection in bioeconomy seems to be a common characteristic of this economy that create different types of body exchange, and we need further study to understand its specific implication.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,150,000	345,000	1,495,000
2011年度	1,030,000	309,000	1,339,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,180,000	654,000	2,834,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、臓器移植、バイオエコノミー、バイオテクノロジー

1. 研究開始当初の背景

現代の医療技術やその実践は、患者の治療という側面だけでなく、人々の価値観や経験の変化、社会構造の再編、さらには人文社会科学における分析概念の再考といった事態にまで影響を与えている。「自然」への技術的介入の可能性が飛躍的に高まった結果、自

然と文化を隔てる境界線は自明性を失い、たとえば親族、人種、身体、所有概念の再検討を通じて、現代の人類学は新たな課題を突きつけられている。

申請者はこれまで、臓器移植医療の導入にともなう身体経験の変容に焦点あてて調査研究を続けてきた。これまでの研究成果と、

内外の研究動向などを踏まえて、経済活動もまた近年の自然科学の発展とともに問い直しにさらされていると着想したことが、本研究の出発点である。生命の経済化という新たな実践とそれに伴う諸問題をとりあげ、バイオエコノミーが社会にもたらす影響を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究では、バイオエコノミーと呼ばれる新しい経済活動の特徴について人類学の観点から研究を行い、経済ならざるものの経済化が引き起こす社会的インパクトについて検討する。20世紀半ば以降、急速なバイオテクノロジーの発展を背景に、生命を直接的な資源とする経済やその産業化が興っている。そこでは、「生命」が喚起するモラルと、「経済」が体现する効率性と管理の領域との間で著しい価値の衝突が生じ、計算にもとづく経済合理性が批判にさらされるだけでなく、ヒューマニズムに基づく人間観や自然観もまた、「生命」そのものの意味の変化によって問い直しを迫られている。こうした新たな価値領域の生成と制度化、その中での人々の実践、および社会問題の構成について民族誌的な観点から考察し、生命と経済の現代的な交錯の動態をとらえることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

平成22年度は、経済行為を可能にする制度化プロセスの解明を中心に研究を実施し、理論的枠組み、言説の変化、民族誌的観点の三点から検討する。参与調査は日本の臓器移植医療に関して患者会等で行い、比較の対象としてアメリカ・フランスの動向をフォローする。そして、バイオエコノミーに関わる基本的な概念と条件、および社会問題の特徴を洗い出す作業を行う。平成23年度は、研究対象を臓器移植医療に限定せずに、生殖医療、遺伝子治療、環境資源などの事例をとりあげながら、より広い範囲での経済の成り立ちを検討する。バイオエコノミーにおける生命の贈与言説に注目しながら、社会における人間の身体の位置づけの変化を考察する。兩年を通じて、積極的に学会・研究会で調査の成果を公表し、そのつど研究プロジェクトの質を高めるよう努める。

4. 研究成果

臓器移植における臓器のやり取りに着目し、人間の身体取引には、不可避的に情動が関わることを明らかにした。この情動の作用は、臓器の経済を特殊なものにしているのみならず、経済と、経済以外の社会現象、文化的価値観とを結びつける重要な役割を果たしている。したがって、バイオエコノミ

一の分野は、つねにハイブリッドな動態に目を向ける必要が生じる。

こうした知見は、臓器移植医療にのみ当てはまるものではなく、むしろバイオエコノミーと呼ぶにふさわしい状況が、おもに先端医療の場面を中心に現れてきていることをまとめ、明らかにした。

こうした論点については、さらにバイオエコノミーの特殊性とその普遍的な性格を精査する必要があり、さらなる研究が必要とされる。本研究は、その意味で、2012年度以降になされる予定の情動の経済に関わる申請者の新たな研究テーマへと継承されていくこととなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

山崎吾郎「身体のハイブリッド」『文化人類学』76(3): 257-266. (査読有)

山崎吾郎「臓器提供に現われる身体と人格：生経済における贈与論のために」『文化人類学』76(3): 308-329. (査読有)

[学会発表] (計3件)

YAMAZAKI, Goro "From cure to Governance: a biopolitical scene after the brain death controversy in Japan", The 35th Annual Meeting of the Society for Social Studies of Science (4S), University of Tokyo, JAPAN (2010.8.26)

山崎吾郎、人格を持たない<身体>の行方：臓器の経済的調整をめぐる、第44回日本文化人類学会研究大会、立教大学 (2010.6.13)

山崎吾郎、身体のハイブリッド、第44回日本文化人類学会研究大会、立教大学 (2010.6.13)

[図書] (計2件)

檜垣立哉編『生権力論の現在：フーコーから現代を読む』勁草書房、2011年(共著)

春日直樹編『現実批判の人類学：新世代のエスノグラフィへ』世界思想社、2011年(共著)。

[その他]

ホームページ等

<http://www.nexyzbb.ne.jp/~yamago/profile.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 吾郎 (YAMAZAKI GORO)

大阪大学・人間科学研究科・特任研究員

研究者番号：20583991